

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

上州 鹿岳－新緑の海を登る－



下仁田から仰ぐ鹿岳(左は四ツ又山)

4 月下旬、群馬の友達に誘われて西上州・鹿岳（カナタケ）（1010m）に出かけた。鹿岳は、下仁田辺りから見て、鬼の角のようにそそり立つ双耳岩峰である。上信越道を下仁田 I C で下り、南牧川沿いの道を小澤橋から北に入った下高原集落に登山口がある。10 時 45 分出発。最初からスギ林の中の急なジグザグ登りが始まる。30 分程で最後の水場に到着し小休止。ここまで来ると一ノ岳の岩壁が真上に覆いかぶさって威圧する。こんな岩壁に登り道があるんだろうかと、信じられない思いである。

更に 30 分程も登るとスギ林が雑木林に変わった。全身が染まらんばかりの新緑に包まれての登山となる。ちょうど 12 時に一ノ岳と二ノ岳の鞍部に到着し、昼食休憩にした。投げ出した足の下に、目が洗われるような新緑の海を見下ろしながらの大休止は、まさに命の洗濯の一時だった。



二ノ岳基部のハシゴ

12 時半、重い腰を上げてまず二ノ岳に登った。基部のハシゴを過ぎ、その上のややルンゼ状の岩壁をロープにすがって登る。15 分程で頂上着。南北に長い岩稜の頂上は 2～3 人

が立てる程度の展望所が 3 カ所程に別れてあるが、あいにくの春霞で眺望はあまり良くない。北の方角の直ぐ近くに、物語山が大きく迫って見えた。

下りの鎖場の順

番待ちですっかり時間を取られ、鞍部に戻ったのが 13 時 20 分。引き続き一ノ岳に向かう。急なヤセ尾根ルートだが岩が階段状に積み上がっており、左右の木の幹・枝に手をかけながら伝い登って 10 分程で、苦もなく頂上に出た。この付近



二ノ岳から望む一ノ岳

はアカヤシオツツジが今が盛りである。狭い頂上から一段南に下がった所に居心地の良い岩棚を見つけ、ピンクのアカヤシオに囲まれながら、しばしのぜいたくな日なたぼっこを楽しんだ。14 時に元の鞍部に戻り、往路と同じルートを下山した。登山口帰着が 15 時。下仁田では、今夜の酒のサカナにと、下仁田名物の刺身コンニャクをしこたま買いこんだ。



アカヤシオツツジ